



Kei Times

Vol.34. H26.4.1

歯周病・インプラントセンター
(医) 怜生会 慶歯科医院
住 所：熊本市西区城山大塘1丁目9-25
T E L：(096)329-3920
E-mail：info@keishika.com
HPアドレス：www.keishika.com/pc/



むし歯菌の『母子感染』って

知っていますか??



これがむし歯です!!

1、むし歯が感染する時期

むし歯の原因であるむし歯菌（ミュータンス菌）は、生まれたばかりの赤ちゃんの口の中にはいません。むし歯菌は歯のような硬いところにしか住めないで、歯が生えていなければ生きていけないのです。ところが、歯が生え始める**生後6ヶ月頃から感染が始まります。特に生後19ヵ月（1歳7ヶ月）から31ヵ月（2歳7ヶ月）までの時期に最も感染し、定着します。**この時期は「感染の窓」と呼ばれ、注意が必要とされています。

虫歯菌（ミュータンス菌）が最も感染しやすい時期



乳歯の奥歯が生え始めるとむし歯菌の感染率が高まります。その理由は、(1) **歯の本数の増加によりむし歯菌の住み家が増えたこと** (2) **砂糖の摂取する機会が増えてきたこと** (3) **他の歯がまだ少ないことが原因**と考えられています。

2、乳歯の本数とむし歯菌の累積感染率

むし歯菌の感染の時期が早いほど、その後にもむし歯ができやすい傾向にあります。2歳前に感染した子供のほうが、2歳以降に感染した子供よりもむし歯が多い傾向にあります。

スウェーデン・イエテボリ大学（世界で最も有名な歯科大学の一つ）での研究では、2歳までにむし歯菌の感染がなかった子供が4歳になったときのむし歯の本数はわずか**0、3本**でした。

一方で、2歳までにむし歯菌の感染があった子供が4歳になったときには、むし歯の本数は**5本**もあり、むし歯の本数に**16倍**もの差ができました。

3、むし歯菌の感染源

むし歯菌（ミュータンス菌）は、主に母親の唾液中のむし歯菌が食事時のスプーンの共有などによって子供に感染します。母親からの感染が多いため、「母子感染」といいます。**母親の口の中のむし歯菌が多いほど、子供はむし歯菌に感染しやすくなります。**そしてむし歯にもなりやすくなります。

4、感染予防方法

1) 子供が生まれる前

母親はもちろんのこと、父親や同居する家族のむし歯や歯周病の治療、歯のクリーニング（PMTC）などの予防処置をおこない、口の中の細菌を減らします。

2) 生後1歳前の離乳期

むし歯菌は唾液を介してうつるため、食べ物の口移しやかみ与えをしないようにします。また、スプーンなどの食器を大人と共有しないようにします。

哺乳瓶はむし歯菌が好きな砂糖の入った飲み物（ジュース、スポーツドリンク、乳酸菌飲料など）を入れて飲ませないようにします。

3) 1～3歳

食事や間食に砂糖の多く含んだ食品は摂取しない生活を送ります。また毎日の歯みがき、歯科医院でのフッ素塗布などの予防処置をおこなうようにします。それでも心配でしたら…

※キシリトールガム※

フィンランドでは出産3ヶ月後から2年まで、母親が1日2～3回キシリトールガムをかむことにより、2歳児時点での母子感染率の低下に効果をあげています。日本でも岡山大学の研究者が同様の研究報告をおこなっています。キシリトールガムをかむ習慣をつけるのも一つの方法です。

キシリトールにはミュータンス菌の活動を弱め、感染を防いだり、歯垢をはがれやすくするなどの効果があります。

歯科衛生士 徳永由加利



歯科専用のキシリトールガムはキシリトール100%!!ムシ歯予防に最適です。

